idea

ニュースレター「イデア」

2020. 4

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　水木流 東京水木会 師範　水木鶴升さん
3｜団体紹介｜　人形劇ラビット
5｜地域紹介｜　第1区自治会（室根）
7｜企業紹介｜　株式会社柴宿ファッション（東山）
8｜博識杜のフクロウ博士｜　地域づくりと地域福祉
9｜センターの自由研究｜「門かぶり松」の世界

今月の表紙

玄関の軒先を貫く1本の松。その先の枝は左右それぞれに、ゆるやかな弧を描きながら伸びています。家の建て替え時に、軒板をわざわざ外してまで守られたというこの松。先祖が残した庭や庭木が「負の遺産」とされてしまうこともある昨今において、とりわけ手のかかる「松」が作り出す「趣」に、スポットを当ててみました（センターの自由研究）。

idea

発行　いちのせき市民活動センター　〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736
ホームページ：https://www/center-i.org/　メール：center-i@tempo.ocn.ne.jp

おしらせ

情報

最新式の骨密度測定装置で骨密度検査をしませんか

「花泉の地域医療を守る会」では花泉地域診療センターの利用促進を呼びかけています。同センターでは2019年4月に最新式の骨密度測定装置を導入し、骨粗しょう症の検査・治療を行っています。骨粗しょう症で骨折しやすい部位である腰（腰椎）と股関節（大腿骨）は寝たきりの原因にもなります。骨密度を検査してみたいと思われる方は同センターをご利用ください。

問合：0191-82-1231
（県立磐井病院付属
花泉地域診療センター）
0191-82-2164
（花泉の地域医療を守る会）

イベント

超絶！津軽三味線+タブラDUO 春ツアー2020

津軽三味線奏者の佐藤通芳と、津軽三味線のルーツとも言われるインドのタブラ奏者・吉見征樹の共演ツアーが一関にやってきます。時に切なく時に激しく！ゆるいトークを交えた楽しいライブです。「津軽じょんから節」、「あいや節」、各地の民謡のほか、オリジナル曲などをお愉しみください。

日時：2020年4月22日（水）
開場 18時半　開演 19時
場所：蔵のひろば 2階
（一関市田村町8-12）
チケット代：〈前売〉2,000円
〈当日〉2,500円
問合：090-4007-1724
（造形おじさん　菅原順一）

情報

「イマカラ」登録者募集

「いちのせき市民活動スタッフバンク」通称「イマカラ」は、一関市内で開催される「スタッフを募集したいイベント」と「地域で活動したい人」をマッチングする仕組みです。当センターのホームページ内「いちのせき市民活動スタッフバンク」のページからスタッフ登録をすると、スタッフを募集しているイベント情報が随時メールにて配信されます。※スタッフ登録は無料です。

イマカラの詳細については右のQRコードからもご覧いただけます。

問合：0191-26-6400
（いちのせき市民活動センター）

情報

NPO法人の皆さまへ 新型コロナウイルスの影響に伴う社員総会と事業報告書等提出について

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、社員総会を開催することが困難となり、事業報告書等の提出遅延が発生することが考えられます。つきましては、下記をご参照いただき、詳しい内容につきましては右のQRコードを読み込むか、所轄庁へお問合せください。

◆総会の義務と決議の省略について
NPO法人は、毎年1回必ず社員総会を開催することが義務づけられています。特定非営利活動促進法第14条の9では、「社員総会の決議の省略（みなし総会決議）」を定め、書面と電磁的記録による社員総会の開催や「持ち回り会議」も制度上可能とされています。 ※みなし総会決議は、やむを得ない事情がある場合のみ選択するもので、推奨するということではありません。

◆インターネット等を利用した会議の活用について
社員が実際に集まらずとも、様々なIT・ネットワーク技術を活用することによって、実際上の会議と同等の環境が整備されるのであれば、社員総会を開催したものと認められます。その場合、役員のみならず、社員も発言したいときは自由に発言できるようなマイクが整備され、その発言を他者や他の会場にも即時に伝えることができるような設備・環境が整っていることが必要です。

◆事業報告書等の提出について
天災の影響など、法人の責めに帰されない事情があった場合は、その事情を所轄庁に十分説明、相談しつつ手続きを進めることとなります。今回の新型コロナウイルスの感染拡大により事業報告書等の提出が遅れそうな場合は、所轄庁へご相談ください。

まちの写真展

スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名「トンネルの向こうは・・・・・・」

国道284号線を室根から千厩に向かう時に視界に入る光景（県道10号江刺室根線への分岐地点辺り）。矢越駅と小梨駅の途中にあるこのトンネルは矢越トンネルという名称のようです。なんとなく絵になるこの風景、電車が通過する瞬間も写真に収めたいものです。

旧町村別の人口動態等を共有します。

2020年 **3月1日**付
（2020年２月29日現在
住民基本台帳より）
※外国人登録者含む

一関市全体

		前月比
人口	115129	-126
世帯数	46274	+10
出生数	40	-17

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	56384	-57	24227	+5
花泉	12772	0	4719	+10
川崎	3512	-8	1283	-2
千厩	10548	-21	4119	-7
大東	13037	-21	5006	+4
東山	6383	-10	2303	0
室根	4818	-3	1801	+1
藤沢	7675	-6	2816	-1

地域の「気になる人」を対談でご紹介

一四二 水木鶴升 ／115,129

昭和50年、花泉町永井生まれ（在住）。小学５年生の10月より水木流（日本舞踊の流派）を習い始め、高校１年生で水木流東京水木会の名取に、大学３年生で師範となる。平成13年４月に水木流鶴升会を発足。発足当時から福祉施設への「をどりボランティア」を続け、令和元年９月には福祉施設へのボランティア活動が500回を達成。書道、華道でも同じく鶴升の芸名を持つ。

第70回　水木流東京水木会　師範　水木鶴升（みずきかくしょう）（千葉健吾）さん　×　いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺浩樹

経験は買ってでも
～古典日本舞踊に見る地域の土台～

「踊り」の愛好家たちが数多く参加したとあるワークショップ（参加型会議）にて一際異彩を放っていた着物の男性。女性ばかりのイメージがある日本舞踊の世界において、若くして日本舞踊・水木流の師範（東京水木会）となった水木鶴升こと千葉健吾さんです。地元の舞台のほか、東京の国立劇場や日本橋劇場で踊った経験もあるという健吾さんに、そのモチベーションとなるものをお伺いしました。

小野寺　小学5年生で始め、高校1年生で名取ということで、わずか4年である程度の技術を習得したということですよね。

鶴升　大学3年の時に師範もとったのですが、その当時にしてみれば異例のスピードだったようです。肌に合ったことと、続けられる環境にあったおかげでしょうね。

小野寺　肌に合ったというのがすごい。代々やっていたとか？

鶴升　家系から見ても誰もやっていないので突然変異です（笑）昔はどこの集落にも「おまつり」があって、その出し物にどの家庭からも必ず一人は出るようにと言われてたんです。ただ、私の家は商売をしていて親が出られないので、私が行かされていて。そこで踊りを教えていたのが小松団子屋のおばあちゃんだったんですが、私の覚えが早かったらしく「ちゃんと習わせたら？」となって。

小野寺　それが水木流だった？

鶴升　そう、先生（水木歌升）が毎月埼玉の狭山市から出張稽古をしてくださっていて。当時は今より日本舞踊は盛んで、町内にも様々な流派がある中で、古典の水木流と出会えたのは小松団子屋のおばあちゃんがたまたま水木流を習っていたからという偶然です。

小野寺　実は勝手な妄想をしていて。永井は街道筋なので、その昔街道が栄えていた時代に、酒屋さんがあって、芸子さんがいて、その流れで日本舞踊があったんじゃないかと（笑）

鶴升　いえいえ（笑）もっと単純に「おまつり」とか結婚式とか、いろんな場面での余興として必要だったんだと思います。だから昔は男の人もけっこう踊ってたんですよ。股旅舞踊とか。

小野寺　確かに、神社の秋まつりとか、青年部で出し物をした

りしますね。でもそれを個人として続けられている魅力というのは、どういうところに？

鶴升　そこが「古典」だったのかな。水木流は古典の日本舞踊なので、1曲20分や30分の演目もあって。そうすると1か月2か月じゃ覚えられないので。それと、古典の音色に魅力を感じます。義太夫節と言って、太棹の三味線で語りも交えての演奏に合わせて踊ったり、長唄などの三味線や鼓、笛とか……。

小野寺　古典の日本舞踊というのは正直知らない世界でした。鏡獅子など歌舞伎のようですね。

鶴升　発表会となるとこういう演目（下記写真参照）になります。大学1年生の名取披露の時に踊ったのがこの鏡獅子。

小野寺　古典を踊る流派は他にも一関にあるんですか。

鶴升　一関にもいくつかあります。ただ、古典を踊る流派以外の舞踊の団体の中で独立し、自分で流派や会を自由につくってやっている人たちが多くなっている気はします。踊りにおいてはありえないでしょ？という振りで踊る会もあり……。

小野寺　好きにやるのと自由にやることは違いますよね。ある程度の型があってアレンジするのは良いとして、型をやぶって自由にやるというのは意味合いが違う。コミュニティの生活も同じく、変えて良い部分と曲げてはいけない部分があって。

鶴升　本当は私も水木流としては、古典だけを踊らなくてはいけないのですが、老人ホームなどでのボランティアでは懐メロや歌謡曲も使うんです。見ている人もその方が喜んでくれるし、それがきっかけでお稽古をしたいという人もいます。歌謡曲などを使っても型は守った振り付けをしています。

小野寺　そもそも水木流はどうして一関に？

鶴升　かつての理事長先生（水木歌澄）が盛岡出身だった縁で、カスリン台風など水害で子どもたちに娯楽がないのを危惧して一関でお稽古を始められたんです。そこで習った水木歌楓先生（旅苑松本）が師範となって広められました。

小野寺　子どもたちへの娯楽なんですね。とは言え、それなりに月謝もかかりますよね。

鶴升　普通の人たちと名取、師範とでは月謝も違いますし、師範の私も師匠の先生にはお月謝を払います。その他にも発表会となればかつらや衣装、出演料などいろいろお金はかかります。いくらももらうの？とよく言われますが、もらうどころか出すんです（笑）

小野寺　お金を払ってまで踊りたいという、そこにプライドというか魂の込め方が違いますよね。「いくらでやってやる」というのと、「お金払うからやらせてください」というのは関係性が全然違う。例えば先日、ある会議で「我々はお金（会費）を払って議論しているんだから」という発言がありました。今の時代、損得勘定でしか見ない人が増えているけど、お金を払ってでも参加することの価値観が変わってしまってますよね。

鶴升　物はあればなくなりますが、自分が修得したもの、経験したものは誰にも持っていかれないじゃないですか。それが自分のためになるわけで。

小野寺　古典の日本舞踊という格式があるものとして、踊る側はプライドを持って続けていくし、呼ぶ側もそうした品格のある余興として、地域の文化にはこれからも残っていくのでしょうね。まだまだ我々には知らない世界がたくさんあり、でもそれも含めて地域という土台があるということを改めて考えさせられました。

名取披露の際に鶴升さんが踊った「鏡獅子」。日本舞踊は約400年の歴史があり、能や歌舞伎を母体とした「舞台上で上演する事を目的とした一個の舞台芸術※」なのだとか。
※公益社団法人日本舞踊協会ホームページより

水木鶴升（みずきかくしょう）
一関市花泉町永井字粒乱田66-3
電話　0191（84）2221

団体紹介

人形劇ラビット
一関市民センターを拠点に、月２回（第２・第４土曜）の例会で練習を重ね、主に市内の幼稚園や子育て支援の場で、子どもや親子を対象にした公演を年４回程開催しています。

TEL 090-9532-6317（事務局千田）

写真：２月に行った「三びきのこぶた」公演後の集合写真

人形とともに繋いだ思い

人形劇ラビット

ある公演の当日と前日

「俺様の鼻息で吹き飛ばしてやる。そーれ『ピーッ』」「わー、助けてー」舞台では狼がわらの家を吹き飛ばしている真っ最中。今日の演目「三びきのこぶた」に、子どもたちの目は釘付け。狼の人形が客席に乱入しそうな勢いで大暴れすると、子どもたちのテンションも最高潮に……。

こうして公演が大成功に終わった「人形劇ラビット（以下ラビット）」ですが、時計の針を1日巻き戻すと、そこには何もない会場に、暗幕を吊るすパイプの枠を組み立て、地道に舞台と客席を設営する会員の皆さんの姿が。50分ほどかけて出来上がると、次はリハーサル。本番を想定してセリフや動きのタイミングなどを確認します。「三びきのこぶた」のキャストはナレーション役を含めて5人ですが、人形を持たないメンバーにも、楽器演奏、効果音、大道具などの役割があります。

ラビットの代表である只野博子さんは、客席から全体を見て、時折気になった点を伝えながら指導し、会員同士も「こうした方がいいんじゃない？」と意見交換。最初のリハーサルでは改善点が多かったものの、当日の開演前も含め5回以上のリハーサルを経て、次第に仕上がっていく様子を、取材を通じて目の当たりにしました。

今回は「練習をして、作品を作り上げていく過程が活動の楽しさ」と語る只野さんに、ラビットのこれまでとこれからについてお話を伺いました。

きっかけは人形劇講座

ラビットの結成は平成11年。「ボランティア活動の一つの方法として、人形劇の人形作りから劇の制作までを学習し、実際に施設を訪問して発表する」という講座の修了生有志が週2回の例会や施設・幼稚園の訪問公演等を主な事業に据えて走り出しました。出来立ての人形劇サークルだったので「当時は発表先を求めて、会員が幼稚園などに出向いていた」と只野さん。「布や生地を持ち寄って人形を自作したり、舞台の大道具や幕を支える枠（支柱）も、設計を考えて手作りした。一関文化センターで公演した際には、背景の布に絵を描いて作ったこともある」と振り返ります。

作った人形は少なく見ても50体以上。傷んで作り直したものもありますが、設立当時からの20年ものの人形もあるのだとか。

そんな活動の一方で、転勤や健康・体力的な理由などで徐々に会員が抜けていき、活動規模も縮小していきます。東日本大震災で沿岸の人形も流されたと聞いた時には「人形をそちらに譲ってラビットはお終いにしようか」という話も出たそうで、只野さん自身の思いも揺れたそうですが、最後は続けたい思いが勝り活動を継続することに。

しかし、その後も人形の多くが出番を失い、倉庫で眠ったままという状態が続きました。

新たな人形劇入門講座

そんな中、平成29年にラビットが活動拠点としている一関市民センターで、新たに人形劇入門講座が開設され、ラビットが講師を務めることに。参加者のひとり、佐藤慶子さんは「（ラビットの）2人の講師に丁寧に教えていただき、人形に触れて興味がわいた。まるで人形が息をしているかのようで舞台が広がって見えた」と講座を振り返ります。

この講座をきっかけに修了生ら8人がラビットに加入、息を吹き返す形に。只野さんは「最終的に2人での活動になっていた私たちと、倉庫で眠っている人形たちに活躍の場を与えたいという、市民センターの配慮があったのではないか」と、講座が開設された背景を推察し、感謝していると語ります。

昨年1年間、8人プラス只野さんという体制で活動してきたラビット。しかし、只野さんは、今年度限りで会を退くことを決意しています。「1年前に辞めるつもりだったが、1年間新しいメンバーの活動を見守りながら伝えられることを伝えようとしてきた。今後はラビットとして使ってきた人形たちをうまく生かして使ってくれたら」と語る只野さん。ボランティア精神に基づき、人形劇を通し豊かな心と文化的な地域づくりに貢献するというラビットの思いと、愛着のある人形たちを後進に繋げられた安堵感。そしてメンバーが静かに人形を置きます。

これからは個性豊かな新しいラビットが、話し合い、協力し合って練習に励み、出番を待っていた人形たちと共に、元気一杯に飛び跳ねていきます。

人形劇の魅力とは？

代表

ただの ひろこ
只野博子さん
ラビット創設時からの生え抜きメンバー。新メンバーの活動を見届け、今年度限りでの退会を決意。

会員

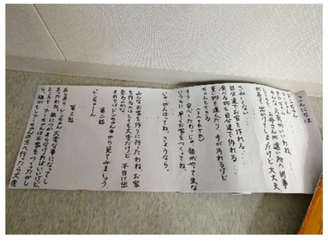
さとう けいこ
佐藤慶子さん
人形劇入門講座で興味がわきラビットに参加。「子どもたちのつぶやきや笑顔がとてもうれしい」とニコリ。

gallery - Photo

会場準備

公演は人形劇の舞台づくりから。暗幕を吊るす枠も手作りで、演者・大道具などの役割関係なく、みんなで準備します。

舞台裏



舞台裏を覗いてみると、ナレーションのセリフが手書きで大きく書かれた紙を発見。出番待ちの間もチェックを怠りません。

「三びきのこぶた」

人形劇の定番。あらすじを知っていても、子どもたちは人形の動きに目を輝かせ、夢中で人形劇の世界に入り込んでいます。

手作りの人形たち

ラビットで使う人形は手作り。倉庫には20年の間に作られた数多くの人形たちが、出番を待っています。

身の丈にあった活動をめざして

第１区自治会（室根）
平成５年発足。宮城県気仙沼市と接し、買い物や通院も車で10～20分程度で行けるため、生活圏はほぼ気仙沼。地区内にはＪＲ大船渡線の新月駅も。水稲と小菊栽培の兼業農家が多い中山間集落で、56戸約180人が暮らす。

左の写真：令和元年「健康と長寿を祝う会＆秋まつり」での集合写真

室根

第１区自治会

有志のパワーで 見守り＆健康づくり

「取材ならぜひサロン活動に合わせて来てください。厳密には自治会とは別組織ですが一生懸命にやられてますから」と、自治会長さんに勧められ、サロン活動真っ最中の自治会館にお邪魔しました。

元気な声のする方に行ってみると、女性陣が手際よく調理中。聞けば毎週行うサロンのうち、月に１回程度（季節の行事に合わせて）は女性陣が料理を用意し、みんなで季節の食事を楽しむのだとか。料理の指導は地区内の食生活改善推進員さんが担当するので、減塩メニューの普及にもつながります。

また、食事を用意する日には、普段のサロン（軽運動や手芸）にはあまり参加しない男性陣にも改めて声をかけやすくなり、実際に出てきてくれるという効果も。

さらに関心すべきは、作った料理を年に２回、地区内の一人暮らしの方の元へお届けしているということ。サロン活動が参加者のみならず、地区全体の見守り活動にもつながっているのです。

自治会活動としては担いきれない部分を、有志のサロン活動が上手にカバーしている同自治会。自治会活動の在り方そのものも時代に合わせて改革を始めているということで、現在の活動と今後の展開について、自治会長の加藤美津男さんにお伺いしました。

柔軟な対応で より良い方向へ

平成30年度までは６つの部（総務、生活環境、女性、産業、青年、体育）で活動していた同自治会。部長は原則輪番制の班長が担い、広く地区内住民がその役を経験するスタイルのため、部長の成り手に困ることはありませんが、青年部と体育部はその性格上、班長に限らずに選出するため、地区内の人口構成の変化によって成り手不足問題が。そこで、１つでも役を減らすべく、平成31年度に青年部と体育部を統合し、文化体育部として発足しました。

新たなスタートを切った文化体育部が最初に取り組んだのは世代間交流行事。５月の連休期間に野外での焼き肉パーティーを開催しました。

「自治会長挨拶など、堅苦しいものは省いたフランクな会だったんですが、こういうやり方もありだなと、新たな発見でした」と、自治会長としても今後の展開に期待しています。

同自治会のメインイベントは10月の「健康と長寿を祝う会＆秋まつり」。室根では自治会毎に敬老会を開催しますが、そこに秋祭りも抱き合わせることで、当祝者だけでなく、地区内の住民が誰でも参加できるような体制にしています。当祝者は市の規定より低い76歳に設定することで参加者を増やし、賑やかに。当日は青年部（現文化体育部）が焼き鳥やサンマを焼きつつ、ビンゴ等の余興を展開するほか、女性部はあんこ餅や汁物等を手作りします。

室根全体の夏祭りで行われる仮装盆踊り大会でも女性部は大活躍。毎年工夫を凝らした仮装と華麗な踊りを披露し、ここ数年上位入賞を続けています。子どもたちも含め、約40人が参加しているとのことで、女性陣の団結力の良さが感じられます。

現状は共有し みんなで取り組む姿勢に

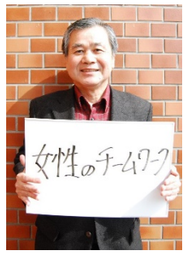
不定期ながら、平均すると月に１回程度は発行しているという自治会便りは、10年以上事務局を務める菅原勝則さんが担当。行事の写真はもちろん、自治会運営に関する住民への周知事項もしっかりと掲載されています。総会資料も同様で、今後への検討事項が明示されています。

例えば、現在は８班体制ですが、高齢世帯が増え、輪番制の班長を担うことが難しくなることが予想されるため、何かしらの対策を検討していきたいということを「自治会班再編成への取り組み」として記載。簡単に取り組めない問題だからこそ、意識喚起をしておくことは重要で「班で話し合ったり調整していく必要があり、従来通りとはいかない様々な課題が出てきています。自治会長としては地域の安全が一番重要。おらほの集落はおれたちで守ろうという意識を高められるようリーダーシップをとっていきたい」という美津男さんには、自主防災組織の活動を充実させていきたいという想いも。

平成２年に建設された自治会館も老朽化が進み、改修のための積立を始めている一方で、来年度からは自治会費を試験的に下げるという改革にも取り組む同自治会。さらには令和３年度に産業部も他部へ統合予定。将来を見据えた改革たちに地域力が試されます。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長



かとう みつお
加藤美津男さん
定年退職後、地域貢献をしたいと副会長を１期、その後自治会長を引き受け、現在２期４年目（区長兼務）。

会計・生活環境部長

おやま けんいち
小山賢一さん
会計は５期目。今期は輪番制の班長だったので、部長も兼務。普段は室根まちづくり協議会の職員として室根市民センターに勤務。

- Photo gallery -

さわやかサロン
この日はひな祭りにちなんだ華やかなメニュー。菖蒲湯と果報団子の季節には一人暮らし世帯に料理をお届けします。

連続入賞中の夏祭り
令和元年度は仮装の部で第３位、新設された浴衣の部では「雅で賞」を受賞。当日までに５回程練習日を設けて臨みます！

生活環境部の花壇整備
自治会館前にある花壇の定植作業と合わせて自治会館周辺の環境整備も実施。班ごとに作業を割り当てます。

総務部の資源ごみ回収
年４回実施。各家庭から自治会館に搬入しますが、高齢者のみ世帯は班内で自然とサポート。貴重な収入源です。

今月のテーマ

地域づくりと地域福祉

博識杜のフクロウ博士

第13話

「**地域づくり**」は、「**生活の基盤となる地域の取り組みを向上させること**」と捉えており、「地域おこし」とは分けて考えています(第１話、第３話参照)。「地域づくり」の代表事例として「**自治会活動**」がありますが、自治会活動は長年の取り組みの積み上げによって成り立っており、見直す機会を失ったまま継続している傾向があるため、改めて自治会活動や地域の課題を話し合ってみましょうという動きが、ここ最近多く見受けられます。課題を列記してみると、どの地域でも共通しているのが、役のなり手不足や行事のマンネリ化、そして最近では、高齢化によって難しくなる生活の諸問題に関することが目立ちます。

自治会活動は、生活の基盤を整えるための地域づくり活動であり、**行事**は「**親睦活動**」**の一環**として行われてきました。住んでいる人がつながるために親睦活動を行い、**親睦活動を通して知り合った住民たちが、ゴミ出しのルール、高齢者や子どもをはじめ隣近所のことを気にしてきた**、という流れです。しかし、いまの自治会活動は、これまでの積み上げで成り立っているので、「やらねば」という継承意識が先立ち、**「いま」の課題感には、ちょっと距離を置いている**状態。気づいてはいるけれど、どう手をつけたら良いか分からずに距離を置いてしまう、ということも。でも、もう**見て見ぬふりができない状況**になりつつあるんです。こうした課題を取り上げると「それは福祉でしょ」と言われることもありますが、福祉課題は自治会が手を付けなくて良いのでしょうか？

「地域福祉」とは　・・・・・・ 脱「縦割り」

「**福祉**」というと、高齢者や障がい者の支援をイメージしがちですが、福祉が目指す姿は、実は違うんです。社会福祉法第４条の地域福祉の推進には、こう書かれています。

「地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。」

下線の部分がポイントで、社会福祉法が推進したいのは、**地域住民が日常生活を営み、社会、経済、文化などあらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるようにする取り組み**です。介護や介助、見守りをしましょうとは語っておらず、そうした支えあいも含めた「**日常生活の充実を求める取り組み**」が「**地域福祉活動**」なのです。

ふくしとは、「**ふ**」**だん**の「**く**」**らし**の「**し**」**あわせ**であり、すなわち**地域づくり活動**を指すのです。

福祉という言葉が出てくると、その推進母体として社会福祉協議会をイメージしがちですが、上述のように、実は、**福祉＝地域づくり全般**を意味するものなので、社会福祉協議会も地域づくり活動全般を担う役割を持っているのです。とは言え、いわゆる「福祉」の支援には専門的知識を持ち合わせた人たちも必要であることから、社会福祉協議会が組織として地域づくりの中の福祉活動に特化した部分を専門的に担っているというだけで、**「ふくし」の推進**は、**自治会はもちろん、地域全体が目指すべきもの**なのです。

地域おこし	地域づくり	地域福祉
あるテーマに沿って何かを創り出す	そもそもの生活･営みを創り出す	普段の暮らしの幸せを創り出す
･地域資源の活用 ･イベント ･情報発信 ･商品開発 ･移住定住促進 etc…	･コミュニティ ･福祉 ･安全安心 ･文化 ･産業の継承 etc…	･コミュニティ ･福祉 ･安全安心 ･文化 ･産業の継承 etc…

上記表のように、地域づくりと地域福祉は取り組む内容や目的は同じなので、これは地域づくりだから…、これは福祉だから…という**縦割り**の考え方ではなく、**広く「地域での暮らし」という土台の上で課題と向き合い、解決方法を探っていくことが必要**です。もちろん取り組み内容によっては専門的な領域になることがあるので、その時は、関係する専門組織の取り組みとして線を引くことができますが、それは縦割りとは言わないでしょう。

企業紹介

東山

(株)柴宿ファッション

株式会社柴宿ファッションは、ジャケット、ワンピース、コート、スカートなど高級婦人服を専門とした縫製工場で、年間４万着を製造しています。

現代表取締役社長 小川浩司さんの父（現会長）が創業者で、埼玉県で縫製会社を起業した後、旧東磐井郡に拠点を移し、昭和54年４月に法人化しました。平成８年からは、株式会社三陽商会の認定工場（認定自主検査制度）となり、技術レベルの高い縫製工場として、多数のアパレルメーカーと取引を行っています。また、現会長は長年、縫製技能検定委員を務め、技能士試験官として縫製知識を高める技術者の育成にも力を入れてきました。

メイドインジャパン！東山町から全国へ

プロ意識で向き合う 上質なものづくり

「テレビなどで弊社が手掛けた製品を見かけると、つい写真に収めてしまいますね」と嬉しそうに語るのは、代表取締役の小川浩司さん。創業当時から婦人服を専門としている同社の製品は、国内の大手百貨店で取り扱われる高級商品が多く、ニュースキャスターや女優、雑誌のモデルも多く着用しています。

小学校５年生の時に家族とともに埼玉県から東山町に移り住んだ小川さん。高校卒業後は、仙台市の専門学校で経営学を学び、宮城県石巻市の大手※アパレルメーカー子会社勤務を経て、平成23年４月に２代目代表取締役へと就任しました。

同社は株式会社三陽商会（以下三陽商会）の認定工場ですが、三陽商会がチェック柄で有名なイギリスのブランド、バーバリー社とライセンス契約したことで、バーバリーの婦人服を縫製していた時期もあるというので驚きです。

同社が手掛けた製品が紹介された記事等をまとめたスクラップを眺めながら、小川さんは「時代の変化と共に国内生産から海外生産が多くなり縫製業界も変化し同業者の撤退も目の当たりしてきました。そんな中で『やっぱり日本で作ったものは技術が違うね』と評価していただけるよう、一人ひとりがプロ意識を持ち、品質向上に向け日々努力しております」と語ります。

※一般的に、衣服の製造業及び流通業をアパレル産業（日本では主に洋装系の既製服を指す）、衣服の企画・製造・卸売を行う企業をアパレルメーカーと呼ぶ。

日本の縫製技術を次世代へ

同社の従業員は50名で、平均年齢が40代と比較的若く、女性も男性も活躍できる工場設備となっています。

三陽商会から依頼を受けデザインをパターン化したデータを基にサンプリングし、その後、量産製造が始まります。裁断、縫製ラインを経て、検査、仕上げプレス、値札を付けるところまで同社で行い、納品後に全国百貨店へ配送されます。

小川さんは「ファッション業界なので、若い人のアイディアは重要」と、工程ラインのリーダーとして若年層を配置するなど、縫製の技術を次世代へ繋ぐための教育・育成にも力を入れていると言います。

ここ数年、東山中学校の職業体験も受け入れている同社。「体験の中では、地元で作られている婦人服が全国に流通していること、縫製の魅力、資格がなくても得意な分野を活かせる職業であることなどを伝えます。そのうえで、職業体験期間中に家族か自分のエプロンを仕上げることを目標にした体験もさせています。寸法を測ってみたり、ミシンやアイロンを使用することで、将来、ものづくりに興味を持ってもらえたら」と笑顔で語る小川さん。

最後に、「人手不足や後継者不足などで廃業に追い込まれる業界の現実もありますが、地元の雇用の場として、また縫製技術を次世代につなげる役目として、これからも地元東山の力となれれば」と語ってくださいました。

1 代表取締役社長の小川浩司さん

2 数十枚の生地を圧縮し一度に裁断できる自動裁断機（AK-A1705ロングタイプ）

3 株式会社柴宿ファッションの外観

DATA

〒029-0302
一関市東山町長坂字柴宿103-1
TEL 0191-47-4107 FAX 0191-47-4411

ミッション43

「門かぶり松」の世界

市内をあちこち回っていると、時折目につく「枝が横に長く伸びた松」。造園用語で「門かぶり松」と呼ばれるそうですが、簡単にはできないであろうことから、それぞれの「門かぶり松」には何かしらのエピソードや、深い愛情が注がれているに違いない！…そんな素人の憶測から、市内各地の「門かぶり松」があるお宅に突撃取材をし、「門かぶり松」の深い世界を少しだけ覗いてきました！

※記載内容はあくまでも当センター独自調査の結果です。

日本庭園には欠かせない存在

常緑であり、長寿であることなどから、縁起の良い木として庭木に好まれていた松。また、日本庭園においては、庭の景観の趣を出すために植えられる「役木（やくぼく）」としても重宝されてきました。その「役木」の一つに「門かぶり松」が挙げられます。

厳密な定義があるわけではないですが、狭義では枝を左右どちらかに伸ばし、門の上（門の代わり）に伸ばしたものを、広義には門の場所に関係なく、横に長く仕立てたものを「門かぶり」と呼ぶようです。また、松の仕立て方は大分して「直幹」「曲幹」「斜幹」に分けられますが、斜幹仕立てのものを「門かぶり」と呼ぶこと（人）もあるようです。

屋根つきの門が格式高い家にしか許されなかった時代に、民衆の間で「門かぶり松」が広まったという説もあるようですが、当地域で見ることができる「門かぶり松」はあくまでも「庭に趣を出す存在」として植えられたものが主流であるようです。

▲「浦しま公園」にも斜幹仕立ての松が（一関大手町）

▲室根町折壁・村上さん宅

▲一関南町・阿部さん宅。植木が好きだった先代が、家と合わせて庭を造り、床の間から見える位置に1本目を、翌年、門の位置にも門かぶり松を植栽。

▲一関弥栄・渡辺さん宅。100年以上前から門かぶり仕立てとのこと。手入れをする庭師も何代か移り替わっているものの、それぞれにお任せコース。

門かぶり松に仕立てた経緯

① 「縁起が良い」等の理由で造園屋に勧められたから
② 植木が好きで、門かぶり松に憧れがあったから
③ 何かしらの記念樹（シンボルツリー）として

①の場合は、**すでに門かぶり松用に仕立てられた松を購入**するパターンが多いようですが、②③の多くは**「山から実生の松をとってきた」「海に行った時に思い出として持ってきた」「畑に生えてきたものを移植した」**等、かなりワイルドな方法で松をゲットしていることが判明（今は法に触れる場合もありますのでくれぐれもご注意を）！自己流で仕立てているという人が調査したお宅の約半数で、さらにその半数は先代が仕立てたものを見様見真似で継承しているというパターンでした。

樹形のこだわり

① 造園屋さんにお任せパターン（手がける庭師の好みが反映される）
② ひたすら長さを追求（左右どちらか／左右両方）
③ 樹形を優先して一定の長さに詰めていく

松は**１年に30㎝程伸びる**とのことで、**枝の長さが10ｍを超えているお宅も多数**！その結果、せっかく伸ばした枝に車がぶつかって折れてしまったというような切ないエピソードもチラホラ。盆栽や植木そのものが好きという方は③のパターンが多いように見受けられました。

▲一関厳美・佐々木さん宅。子ども会で遊びに行った思い出に、40年程前に某海岸からいただいてきた松を自己流で門かぶり仕立てに。

調査結果はホームページにて

当初は調査結果をもとに、門かぶり松の樹形等を勝手にジャンル分けし、ランキング的にご紹介しようと考えておりましたが、それぞれに個性があり、優劣をつけられるようなものではなかったので、当センターのホームページにおいて、調査で撮らせていただいた門かぶり松の写真を公開しております。エピソードとともに、ぜひお楽しみください！（「いちのせき市民活動センター」で検索し、該当ページへ）

松の‘仕立て’の基礎知識

奥が深い松の世界！取材先や造園屋さんに教えていただいた「基本のキ」です。

【剪定】
松の新芽（春芽）はミドリと呼ばれ、このミドリが梢となり、そこに針葉が生え、数年後に葉が落ちて枝になるという仕組み。そのため、仕立てものの松においては、５月～６月にかけて行う「ミドリ摘み」が必須。仕立てる樹形に応じてミドリを摘み取ります。

▲東山町長坂３区内のお宅

【支柱】
枝を伸ばしていくと、風雪から守るための支柱（挿し枝と呼ぶ人も）が重要に。竹などを用いますが、添えることで枝が伸びやすくなるとのこと。また、巨木化してきたら「頬杖支柱」という地面から枝や幹そのものを支える支柱も有効。

▲花泉町老松・千葉さん宅

ミドリの摘み取り方（＝梢の残し方）によっては、左のような細かく屈曲した樹形を作ることができます。
また、11月頃に行う「もみあげ（すかし）」という作業も重要とのこと。

▲東山町長坂１区内のお宅

【曲幹仕立て】
松は基本的に直幹であり、曲がっているものは人為的に曲幹にされていることが多いとか。その場合は樹齢10年位の頃（直径10㎝程度の頃）から、少しずつ（３～10年程かけながら）樹形を作っていくとのこと。

松の管理＝病気との戦い！？

調査をする中で出会った病気にやられてしまった松たち。外材の流通の影響で松の病気は増えているのだとか……。

◀ 幼少期の後藤新平（胆沢出身の政治家）が何か悪さをしてこの松に縛られたとして「後藤新平懲らしめの松」と呼ばれているという樹齢350年超の立派な門かぶり松。岩手日日にも過去に数回取材されているというこの松も、マツ材線虫病（俗称：松くい虫/松枯れ）によって現在はこのような立ち枯れ状態に。「自分に気のゆるみがあったのかもしれない」と本当に悔やまれている様子。（一関舞川・斎藤さん宅）

▶「謡いの文句の中に『相生の松』という文言があり、それを名称として看板をつけた途端に枯れてしまった」という切なすぎるエピソードのあるこの松は、たまたま２本生えてきた実生の松を、上に伸びないようにしていたところ、それぞれが干渉しないように上手く横に伸びてくれたのだとか。そのうちの１本がマツ材線虫病で枯れ、残っている１本も中に虫が入っているとのことで、枯れるのも時間の問題とのこと……。
（花泉町涌津・今野さん宅）

病気予防のアドバイス

鈴木隆廣さん
（鈴木造園代表）

樹木は葉からの**光合成**で生きていて、松も同様。**過度に葉を薄くしてしまうと、光合成ができず弱くなる。手入れのバランスが病気に負けない元気な松にするポイント。**弱ってきたら手入れを休んだ方が良い時も。**全体的に黄色くなってきたら要注意！**早めに専門業者に相談しましょう！